

● 琉球群島に於ける

古賀氏の功績

(其九)

▲ 沖の神島の探險及其經營 沖の神島は東經百二十三度三十三分北緯二十四度十三分に在る無人の一小孤島にして曩にも古賀氏はその實地探險を試みたる事ありしが同島は水禽群棲し沿岸は又海産物に豊富なるを以て劃策其の宜しきを得ば必ず有望の地たらんと認め直ちに其の許可を請願したるに明治十八年一月之が許可を得目下同島には出稼労働者二十三名監督二名を派遣して之れが經營に着手せり此島に於ける一般の規模は凡て尖閣列島の範に則り居れり

▲ 沖の神島事業梗概 沖の神島經營認可を得たりし當時は諸他の設計に多忙なりしが故に其の翌年乃ち明治三十九年三月より經營に着手せり而して同島は八重山郡西表嶋を距ること西方僅かに七海里に過ぎざるを以て傳馬船二艘列舟五艘を以て交通機關に充用し同年七月には廣運株式會社所有船球陽丸を特派し四十年八月に至りて更に汽船辰島丸を派遣せり而して氏が同島經營に着手以來日尙ほ淺く此の間未だ投資のみにして純益なしと雖も採取せる産物の種類及價格は左の如し水禽剝製六萬羽一羽十四錢にして八千四百圓、鳥肉肥料一万四千斤一斤四錢八厘にして六百七十二圓、鳥油七十函一函三圓二十錢にして二百二十四圓、其他の海産物一千六百圓、合計一万〇八百九十六圓なりと